



## 寄稿

## 2 地域と一体になった 大学・まちづくり —まち全体をキャンパスに—



和歌山信愛大学 副学長・教育学部長

大山 輝光

### はじめに

グローバル化の進展や人工知能技術による技術革新など、社会構造が大きく変化しています。それに伴って、これからの予測困難な時代を生き抜くために必要な能力も変わることから、学習指導要領改訂や高大接続改革・大学入学者選抜改革など、今、教育が大きく変わろうとしています。

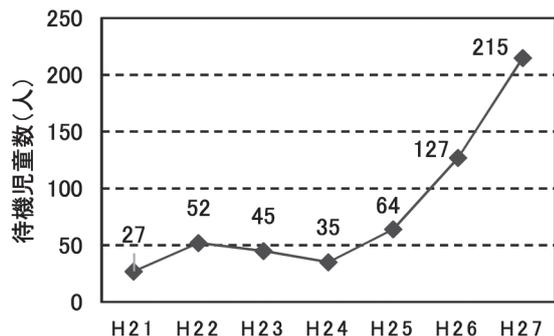
平成30年11月に中央教育審議会より示された答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にも述べられているように、人生100年時代を迎え、10年後には日本の生産年齢人口はOECD加盟国中最下位に、20年後には18歳人口は現在の120万人から88万人に減少すると予測されています。このような変化の激しい時代を力強く生き抜く人材を育てる教育、それは、陸奥宗光などに代表されるように、激動の時代、日本を支える人材を輩出し続けてきた和歌山県の教育であり、長年にわたって信愛が取り組み続けている教育でもあります。本稿では、4月に開学した和歌山信愛大学について紹介しながら、地域と一体となった人材育成について考えたいと思います。

### 1. 和歌山信愛大学開学の背景

#### (1) 保育者不足の深刻化と幼児教育の充実

本学の設置構想は平成27年に遡ります。当時、和歌山県における保育士不足は非常に深刻で、保育士の有効求人倍率は2.33倍（全国平均1.93倍）と全国で6番目に高い状況でした。これに対し県では、保育士の処遇改善に取り組むとともに、保育士支援コーディネーターを配置して潜在保育士等の再就職支援を行うなど、保育人材確保に向けた取り組みを積極的に行っていましたが、女性活躍促進に伴う保育希望者の増加もあり、保育士不足解消は困難でした。また、和歌山市の採用においても、非常勤保育士の応募が定員割れするケースが見られるなど、保育所・幼稚園の現場から「保育士や幼稚園教諭が足りない」との声が上がってしま

た。市では、待機児童の解消や働く女性の子育て支援の一環として認定こども園を11園（平成29年4月時点）から29園に増やす計画でしたが、県内で認定こども園の職員を養成できる高等教育機関は和歌山信愛女子短期大学1校のみである上に、園長資格として望ましいとされる幼稚園教諭一種免許と保育士資格を同時に取得できる教育機関が県内に存在しないことが大きな課題でした。



和歌山県内の保育所における待機児童数の状況 (10月1日時点)

## (2) 県内高校生への教育機会の提供

当時、和歌山県には6つの高等教育機関（4大学、1短期大学、1高専）があり、和歌山市内には和歌山大学と和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学の3校のみと、大学収容力は全国最低でした。その結果、県内大学への進学率は10%程度、短期大学についても36%程度と全国最低で、毎年多くの若者が大学進学を理由に県外へ流出していました。

和歌山県の大学進学者数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
大学進学者数	4,480	4,453	4,280	4,373
県内進学者	473	479	447	490
県内進学率	10.6%	10.8%	10.4%	11.2%
短大進学者数	585	567	592	553
県内進学者	209	209	212	195
県内進学率	35.7%	36.9%	35.8%	35.3%

※学校基本調査より

大学進学だけではなく就職においても、県内大学生の自県内就職率は平均30%程度と低く、70%もの学生が県外へ就職していきます。

和歌山県長期人口ビジョンに示されているように、このままでは県の総人口は2040年に70万人程度へ、2060年には現在の半数にあたる50万人程度まで激減し、自治体の存続までも危惧されます。

このような中、県は長期総合計画を策定し、県内進学を希望する高校生への選択肢を広げるため、新たな高等教育機関の設置・誘致を推進することとなりました。また、市においても、「伏虎義務教育学校の新設により廃校となる小中学校跡地への大学誘致について—まちなか3大学構想—」を打ち出し、保育・医療・介護など、人材が不足している専門性が高い分野の大学誘致を進めることとなり、本学は市立本町小学校跡地への大学設置誘致を受けることとなったのです。

## 2. 和歌山信愛大学について

### (1) 地域を支え続けてきた人材育成

学校法人和歌山信愛女学院は、昭和21年4月にその前身である桜映女学校の創立以来、今年で73年を迎えます。和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園と和歌山信愛中学・高等学校、和歌山信愛女子短期大学、そして新たに開学した和歌山信愛大学を擁しています。その中で和歌山信愛女子短期大学は、保育科、生活文化学科・生活文化専攻、生活文化学科・食物栄養専攻の2学科2専攻を設置し、県下唯一の幼稚園教諭・保育士・栄養士養成短期大学として発展してきました。長年にわたる専門職業人材の養成と、金融・商業・医療などの分野において地域の基盤となる人材養成に努めてきたことから、入学者の95%以上が県内出身者であり、その多くが地元就職するなど県内定着率が高いのが特長です。また、平成25年度には、短期大学の全学的な取り組みである「子育て支援を主軸とした地（知）の拠点事業『きょう育の和』」が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択され、幼児教育の充実に向けた教育・研究・社会貢献事業を推進しています。

## (2) 和歌山信愛大学の概要

本学校法人の持つ教育・研究・社会貢献上の蓄積を基盤としてさらに発展させ、より高い資質を持った教育者・保育者の養成に対する社会的ニーズに応えたいという思いと、持続可能な和歌山を実現するために若者の地域定着を促進しようという市と県の思いが両輪となり、相互に連携・協力することによって和歌山信愛大学が開学しました。



和歌山信愛大学

本学は教育学部子ども教育学科を設置する単科大学です。1学年の定員は80名で、保幼小の連続性に理解の深い教育者・保育者養成を目指します。そのために、1年から2年次までは小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格に関する基礎的な科目を横断的に学び、3年次から「小幼コース」と「幼保コース」の二つに分かれ、初等教育と幼児教育についての専門性を高めるカリキュラムを設けています。学生は大学入学後2年間の学びを通して、自分自身でコースを選択することになりますが、これは、学生が自ら主体的に考え、判断し、表現・実行するというプロセスを実践的・体験的に学ぶ仕組みでもあります。また、3年次の学修状況が良好な学生については、コースや学年を超えて科目履修できる枠組みも設けました。これにより、小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の三つの免許・資格を取得することが可能です。

さらに、共通基礎科目に「教育者の教養」や「教師塾（キャリア教育）」、「地域連携科目」といっ

た独自の科目群を設け、地域社会との繋がりの中で学びながら教育者・保育者としてのキャリア形成を促します。今後4年間、学生は、地域力再生論や地域連携フィールド学習、地域連携フィールドゼミナール、地域防災教育論などの科目を、学内のみでなく学外もフィールドに幅広く学んでいきます。

## (3) 大学の施設設備・校舎

本学の校地は、市街地中心部にありながら、約10,200㎡の広さを有しています。緑豊かな本町公園に隣接し、教育に最適な環境です。校舎は市立本町小学校校舎のリノベーションによるもので、1号館から3号館までの三つの校舎と体育館、グラウンドがあります。



大学全景。手前の建物より1号館、2号館、体育館。右奥の3号館は令和2年度から利用。3号館右の敷地には、令和2年春に和歌山市の本町認定こども園・こども総合支援センターが完成する。

講義室と研究室のドアや壁には木材を活用し、大きな窓を設けることで学生の生活空間が明るく開放的になるよう配慮しています。

すべての講義室には、電子黒板機能を持つプロジェクターやホワイトボード、音響設備を整えました。また、学生同志の主体的・対



講義室や研究室のドアや壁には木材を活用

話的な学びの拠点として、可動式の机やイス、ホワイトボード、視聴覚機器、コンピュータ、無線 LAN 環境を整備したラーニングコモンズ“LANDs”を設置しています。



ラーニングコモンズ LANDs

1号館には、最大100名が利用できる中講義室や語学教育機能を持つ多目的コンピュータ室、小学校の教室環境を再現した模擬教室、家庭科教室、図工室などを配置しています。また2号館には、5室の講義室や心理学演習室、理科室、音楽室、ミュージック・ラボラトリーなどを配置しています。1号館と2号館の間には、中庭を整備し、ベンチやイスなどを備え付け、学生の憩いの場となっています。

体育館やグラウンドは、授業や課外活動での活用は勿論、地域の方々の利用も想定しています。本学は、学内のみでなく、地域や商店街などまち全体を一体的にキャンパスと捉えた大学づくり・まちづくりを目指しています。そのために、あえて学内に学食を設けず、昼休憩を60分と長く設定するなど、市や近隣の商店街との連携協力の下で学生サービスの提供を行う計画です。現在、ぶらくり丁商店街の連携店マップを作成して学生へ配布するなどの取り組みを行っていますが、これからも学生と地域の相互利益に結びつくような連携を促進していきます。

## おわりに

和歌山信愛大学は、学校法人と、和歌山市や和歌山県、日高川町、湯浅町などの自治体、学校関係者、地元企業、そして本町地区やぶらくり丁商店街などの方々が一体となって取り組み、開学に至りました。昨年9月に設置認可を受けた後、半年間という短期間の学生募集・入試にも関わらず、定員を超える83名（男子25名、女子58名）の優秀な学生が入学し、新しいキャンパスで学んでいます。



最大100名が利用できる中講義室



学内に学食を設けず昼休憩を60分に設定



学生ラウンジや図書館のリラックススペース

新入学生の80名(96%)が県内出身者ですが、卒業後は県内・県外出身者とも、その多くが当初の希望通り地元就職し、人と地域を支える人材となって活躍してくれることでしょう。

信愛大学は多大な支援を受けて開学することができましたが、その取り組みはこれからが本番です。和歌山の発展を支え推進できるよう、学生と教職員、地域の方々とさらに一体となって、多くの人が集う大学・まちづくりに邁進し続けたいと考えています。



地元企業との交流（時計塔寄贈の様子）



本町地区やぶらくり丁商店街との交流会